

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	体育 C I	
科目基礎情報							
科目番号		0064		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科（電気電子コース）		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		現代高等学校保健体育 改訂版 保健304					
担当教員		松崎 拓也					
到達目標							
1 基本的な運動技術を習得し技能を高めることができる 2 運動の楽しさや喜びを味わい、協力して意欲的に取り組むことができる 3 ルールやマナーに対する公正な態度や責任、安全に留意して活動することができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ベースボール型種目における基本的な運動能力を獲得すること。		ベースボール型種目における基本的な動作を学習すること。		ベースボール型種目における基本的な技術を学習すること。	
評価項目2		ベースボール型種目における基本的な戦術やチーム練習を協力しておこなえること。		ベースボール型種目における基本的な戦術やチーム練習を協力して理解すること。		ベースボール型種目における基本的な戦術やチーム練習を理解すること。	
評価項目3		基本とする運動やベースボール型種目における運動を理解すること。		基本とする運動やベースボール型種目における運動を行うこと。		基本とする運動やベースボール型種目における運動を知ること。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 G④ 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。							
教育方法等							
概要		各種の運動の実践を通して基本的な運動技術を習得し、運動技能を高めるとともに、記録の向上や競争、勝敗を競ったりして多様な楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて運動ができるようにする。					
授業の進め方・方法		授業は実技を中心に行うが、取り扱う種目の特性や学生の実態に応じて体育理論やスポーツテストと関連づけて行う。また、必要に応じて視聴覚教材も利用する。 雨天時は種目の変更、若しくは視聴覚教材を利用して実施する。 必要に応じてレポートを課すことがある。					
注意点		学校指定のウェア、シューズを着用すること。 ウェア、シューズの貸し借りは衛生上好ましくないため禁止。 貴重品の管理は各自で行うこと。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	体力測定・評価		体力測定の方法及び評価を行い自らの体力を知ることができる。		
		2週	体力測定・評価		体力測定の方法及び評価を行い自らの体力を知ることができる。		
		3週	体力測定・評価		体力測定の方法及び評価を行い自らの体力を知ることができる。		
		4週	ソフトボール		投げる、打つ。		
		5週	ソフトボール		捕る、走る。		
		6週	ソフトボール		キャッチボール、トスバッティングなど		
		7週	ソフトボール		ゴロやフライの捕球動作送球動作など		
		8週	ソフトボール		実技テスト		
	2ndQ	9週	ソフトボール		基本練習 ゲーム（基本技術の活用）（雨天時は室内でのティーボールを実施する）		
		10週	ソフトボール		基本練習 ゲーム（基本技術の活用）		
		11週	ソフトボール		基本練習 ゲーム（基本技術の活用）		
		12週	ソフトボール		基本練習 ゲーム（基本技術の活用）		
		13週	ソフトボール		基本練習 ゲーム（基本技術の活用）		
		14週	ソフトボール		実技テスト		
		15週	ソフトボール		ゲーム（基本技術の活用）		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。		3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。		3	
				目標の実現に向けて計画ができる。		3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。		3	

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	

評価割合

	技術・技能試験	協力的学習	レポート・ノート等			合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0